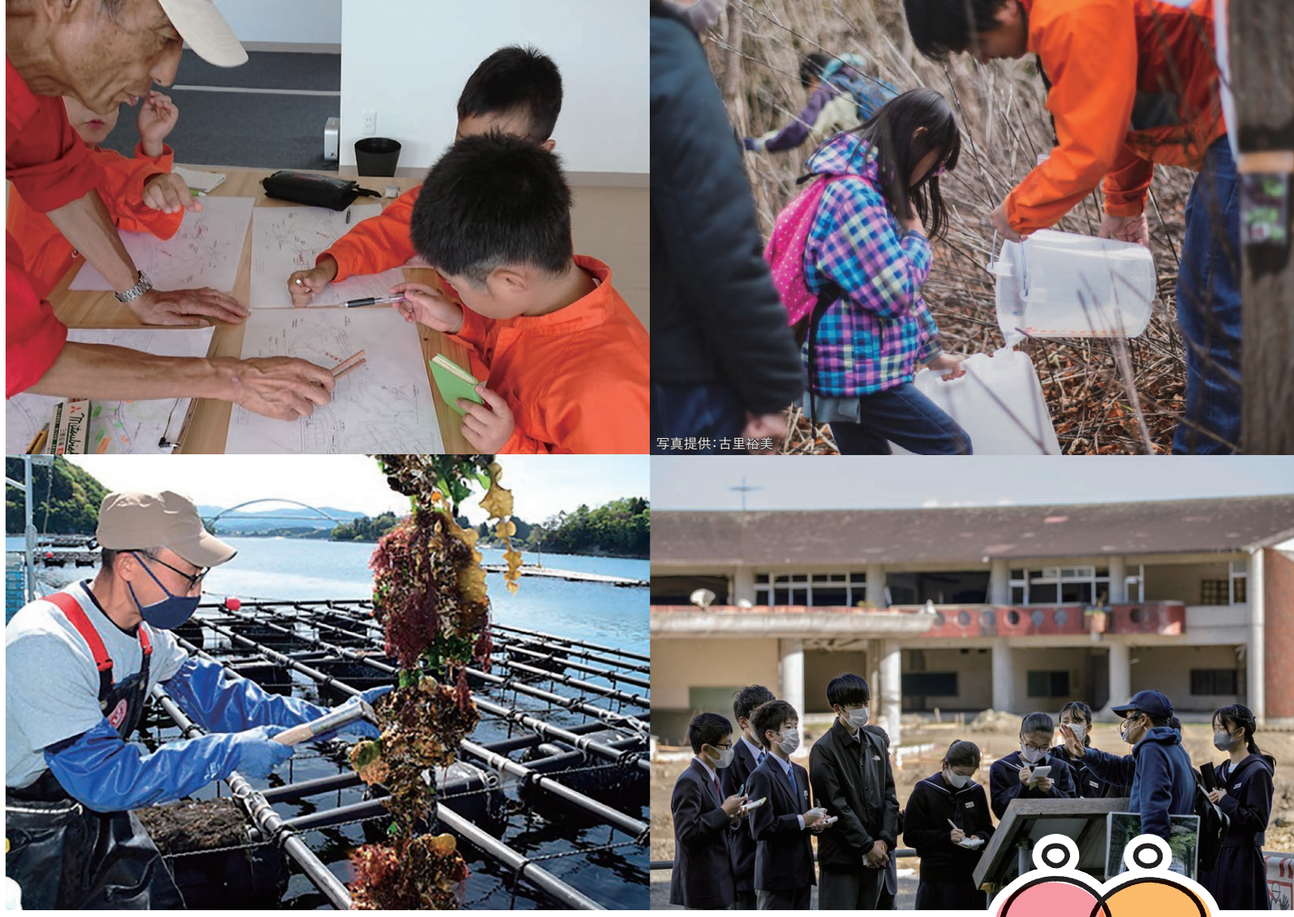

写真提供：古里裕美

地域の未来を拓くその一歩にエールを。

今できることプロジェクト
2021-2022
復興から伝承へ

賛同企業募集企画書

河北新報社
2021年8月

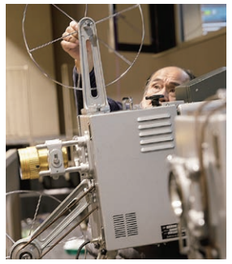
お申し込み・お問い合わせ

●**河北新報社 営業局営業部**
〒980-8660 仙台市青葉区五橋1-2-28
TEL 022-211-1318　FAX 022-227-0923

●**河北新報社 東京支社営業部**
〒105-0004 東京都港区新橋5-13-1新橋菊栄ビル7F
TEL 03-6435-8401　FAX 03-6435-8406

●**河北新報社 大阪支社営業部**
〒541-0041 大阪市中央区北浜2-1-23
TEL 06-6227-1051　FAX 06-6227-1060

宮城の復興のために
新聞社が考える
復興支援プロジェクトは、
地域の可能性を
発信する取り組みへ。



東日本大震災から真の復興を果たすため、「今、私たちにできることはなんだろう?」という真摯な問いかけから震災翌年にこのプロジェクトが走り出し、今年度で10年目を数えます。これまでたくさんの読者や賛同企業の皆さまに参加・協力をいただきながら、宮城県内各地で幅広い活動を展開してきました。

震災の発生から10年を迎えた今年度は新たな展開へと舵を切り、これから先を見据えた視点を加えた内容に発展させていきたいと考えております。そのためには、本プロジェクトの理念に賛同してくださる企業の皆さまのご協力が不可欠です。地域の未来を後押しする志を共有し、厚いご支援のほど何卒よろしくお願いいたします。

これまでの詳しい活動の記録は
こちらからご覧いただけます。

https://www.kahoku.co.jp/imadeki/

① 親子で学ぶ防災学習支援

大災害から命を守る知識と技術を楽しく修得。

指定避難所でありながらも3m超の津波が押し寄せ、甚大な被害が発生した東松島市立野蒜（のびる）小学校。2016年3月に閉校となり、建物の解体が決まっていましたが、保存を望む地域住民の声を受け、防災体験型教育施設「KIBOTCHA（キボッチャ）」として生まれ変わりました。遊びながら防災の学びが得られることがこの施設のコンセプト。当時の状況を伝える展示資料や防災をテーマにした室内公園、子どもから大人まで参加できる防災教育キャンププログラムなどが利用できます。

地震や津波以外にも、台風や大雨などの天災が多発している昨今、いつでも自分が被災者になり得る可能性があります。本プロジェクトでは、震災を経験していない、または記憶が希薄な子どもたちが、大災害に遭遇した際、自らの命を守るためにどのように行動すればよいかを学ぶ契機として、親子で参加する防災デイキャンプを開催します。防災マップ作りなどのワークショップのほか、岩沼市に本社を構え、当時被災した「にしき食品」から非常食をローリングストックすることの大切さを学びながら、災害時を想定したカレーの炊事体験も行います。

企画展開スケジュール（予定）

2021年10月上旬	参加募集スタート
2021年11月上旬	一般参加者による活動実施
2021年12月中旬	イベント採録紙面掲載

賛同企業様へ　賛同企業様からの参加も歓迎

親子で学ぶ防災学習支援活動に賛同し、親子でデイキャンプに参加いただける賛同企業を募集いたします。

KIBOTCHA

野蒜小学校跡地を再利用する事業者を東松島市が公募し、審査によって選ばれた貴凛庁株式会社が、宿泊・飲食・入浴・学び・遊びなど多彩なカテゴリーで利用できる防災体験型教育施設を2018年にオープン。2020年には、独創性と汎用性がある運営を評価され、土地活用モデル大賞・国土交通大臣賞を受賞しています。

https://kibotcha.com/

そして、これから、ともに。
今できることプロジェクト2021―2022展開案

② 気仙沼の新たな特産発信支援

潮風が育む牡蠣とイチゴのおいしさを体感。

気仙沼市を襲った震災大津波は、人や家屋のみならず産業にも大きなダメージを与えました。気仙沼湾に浮かぶ大島で牡蠣などの養殖業を営んでいた「ヤマヨ水産」も、その例にもれません。会社員の経験を経て四代目を継いだ小松武さんは、自社再建が難しいと悩み抜いた1年後、震災以前から温めていた資金調達のアイデアを“支援”の名で求めることを決意。生産者と消費者お互いの顔が見える関係を実現する「復興・オーナー制度」で着実にファンを獲得し、見事再生を遂げました。

また、階上地区では、2016年に被災農家が集まって農業法人「シーサイドファーム波路上（はじかみ）」を設立。県の圃場整備事業で復旧した約20ヘクタールの土地で、ネギやイチゴなどの栽培に取り組んでいます。社長を務めるのは、杉ノ下遺族会の会長、佐藤信行さん。階上の実りを地域ブランドとして定着させるため、日々畑仕事に汗を流しています。

本プロジェクトでは、この2つの生産現場を訪問。当事者から今後の展望などについて話を聞きます。また、「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館」も見学する予定です。

企画展開スケジュール（予定）

2021年12月上旬	参加募集スタート
2022年1月下旬	一般参加者による活動実施
2022年2月下旬	イベント採録紙面掲載

賛同企業様へ　賛同企業様からの参加も歓迎

気仙沼の新たな特産発信の取り組みに賛同し、ヤマヨ水産とシーサイドファーム波路上の生産現場を巡るツアーに参加いただける賛同企業の参加者を募集いたします。

株式会社ヤマヨ水産

昭和初期から浅海養殖業を営み、気仙沼大島で牡蠣などを中心に生産から加工、販売まで手がけていましたが、震災による津波で船舶や養殖施設が壊滅。現社長が牡蠣棚のオーナー制度を採用し、大島ブランド牡蠣のファン獲得に成功しました。今年から新会社として営業がスタートし、今後の躍進に注目が集まっています。

https://yamayosuisan.wordpress.com/

シーサイドファーム波路上株式会社

震災後、気仙沼市階上地区に圃場整備された新たな農地で、ネギとイチゴの栽培を行っている営農事業者。養液栽培で丁寧に育てている完熟イチゴは、甘みと酸味のバランスが絶妙で、地産地消ならではの気仙沼フルーツとして注目を集めています。

③ 石巻・牡鹿地域の資源活用支援

写真提供：おしかリンク

写真提供：おしかリンク

牡鹿半島に息づく豊かな自然資源を再確認。

東日本大震災で10mを超す津波に襲われた牡鹿半島の桃浦地区は震災前、約70戸180人が暮らしていましたが、現在は5戸にまで減少しました。一方、牡鹿半島各地の集落と住民の減少にともなって増加したニホンジカの生息数は3,300頭にもおよび、その食害で山林の荒廃が加速化しています。震災ボランティアをきっかけに愛知県から牡鹿半島に移住した「おしかリンク」代表の犬塚恵介さんは、この地域に自生する「ウリハダカエデ」をシカが好まないことに着目し、ウリハダカエデから採れるメープルシロップを活用した産業づくりに挑戦しています。復興期間や地方創生期間の終了後も健全な地域づくりを続けて人口減少に歯止めをかけるためには、主産業である漁業だけでなく多様な生業（なりわい）が必要と考えるからです。

今回のプロジェクトでは、ウリハダカエデの植樹や樹液採取などの活動に実際に触れながら、震災10年を経てより深刻となった社会課題に向き合う犬塚さんのお話を伺うほか、震災の記憶と教訓を後世に語り継ぐ拠点として今年3月28日に開園した「石巻南浜津波復興祈念公園」も訪問します。

企画展開スケジュール（予定）

2022年1月中旬	参加募集スタート
2022年2月中旬	一般参加者による活動実施
2022年3月中旬	イベント採録紙面掲載

賛同企業様へ　賛同企業様からの参加も歓迎

おしかリンクの活動理念に賛同し、牡鹿半島の自然に触れるワークショップで共に学びを深めていただける賛同企業の参加者を募集いたします。

一般社団法人おしかリンク

牡鹿半島の人口構造の健全化、なりわいの多様性創出、自然環境の保全に向けた取り組みを実践。その活動を通して、人と人、人と自然をつなぎ、牡鹿半島の住民福祉の増進、地域社会の健全な発展、文化及び芸術の振興、自然環境の保護及び整備を図るなど、地域に根ざした活動を展開しています。

https://www.facebook.com/oshikalink/

そして、これから、ともに。
今できることプロジェクト2021―2022展開案

④ 次世代の被災地視察教育支援

中学生たちが得た命の学びと教訓を次世代に。

東日本大震災発生から10年が過ぎ、人々の記憶も次第に失われつつあります。特に、中学生以下の年代になると、全く憶えが無いという子どもも少なくありません。来たるべき大災害から一人でも多くの命を守るためには、記憶の風化を防ぎ、若い世代へ教訓を継承していくことが必要不可欠です。そこで、教訓の若き担い手である中学生たちに、宮城県内各地の被災地を視察してもらい、若者の目線から震災の事実と向き合う機会を創出する取り組みを昨年度からスタートさせ、大いに反響を集めました。

事前にオリエンテーションを行い、十分な予備知識を備えて被災地を訪問。現地の語り部や追悼施設、震災遺構、復興めざましい地域などで学びを深めながら、肌で感じて実感を得る視察を実施します。その後、ワークショップでそれぞれの考えをまとめ、中学生自身が伝えたい東日本大震災についての記事を作成してもらいます。それをまとめた特集紙面を、宮城県内外の中学生や各施設へ配布する予定です。

参加予定の中学校

- 仙台市立宮城野中学校
- 尚絅学院中学校
- 仙台育英学園秀光中学校

視察予定の被災地

- 亘理町
- 女川町
- 岩沼市

企画展開スケジュール（予定）

2021年9月～10月	被災地視察
2022年2月中旬	特集紙面発行

紙面展開

このプロジェクトに協力してくださる賛同企業様のために、ツアーの一般参加者を募る募集告知紙面や活動の内容を伝えるレポート紙面のほか、さまざまな紙面展開をご用意しています。賛同企業様の社名やロゴの紙面掲載をはじめ、純広や記事体広告など、ご要望に合わせてご案内いたします。

プロジェクト掲載紙面

紙面に
賛同企業名
掲出

●2021年10月1日から
●朝刊カラー全15段、全5段 など

スタート紙面

賛同企業名

募集紙面

賛同企業名

レポート紙面

賛同企業名

※昨年度の紙面です。

プロジェクト告知（4社連合） 原寸

賛同企業
ロゴを月1回
掲出

●2021年10月～2022年3月まで
●朝刊カラー全1段（タテ32mm×ヨコ381mm）

賛同企業フリースペース 原寸

●2021年10月～2022年3月まで1回掲載
①記事体広告タイプ…被災地支援活動の取材記事（朝刊モノクロ3段1/2）
※毎月下旬、賛同企業被災支援活動の取材記事として、複数社とりまとめて掲載します。ご希望の掲載月をご連絡ください。
②純広タイプ…朝刊カラー 4段1/4相当 カット付きフリースペース
※ご希望の掲載日をお知らせください。

今できることプロジェクト 2021-2022 復興から伝承へ
私たちは東北の復興のために「今できることプロジェクト」に賛同しています。
［プロジェクトに関するお問い合わせ］今できることプロジェクト事務局／河北新報社営業部 tel 022-211-1318

原稿サイズ
タテ110mm×ヨコ90mm

②純広タイプ…カラー4段1/4

賛同企業向けカット付フリースペースとしてご利用いただけます。

◎フリースペースサイズ　タテ 110 mm×ヨコ 90 mm
※完全データにて入稿ください

①記事体広告タイプ…モノクロ3段1/2

貴社の被災地支援活動に関する取り組みを取材します。
◎写真／2点まで

今できることプロジェクト 2021-2022 復興から伝承へ
「今できることプロジェクト」賛同企業の被災地支援活動、復興支援活動などを紹介します。
〔お問い合わせ〕今できることプロジェクト事務局／河北新報社営業部 tel 022-211-1318

この文章はダミーです
ここには見出しが入ります。

〇〇〇〇〇〇〇の
復興支援活動

この文章はダミーです。文字サイズや文字間隔の参考にしてください。この文章はダミーです。文字サイズや文字間隔の参考にしてください。この文章はダミーです。文字サイズや文字間隔の参考にしてください。この文章はダミーです。文字サイズや文字間隔の参考にしてください。この文章はダミーです。文字サイズや文字間隔の参考にしてください。この文章はダミーです。文字サイズや文字間隔の参考にしてください。この文章はダミーです。文字サイズや文字間隔の参考にしてください。この文章はダミーです。文字サイズや文字間隔の参考にしてください。この文章はダミーです。文字サイズや文字間隔の参考にしてください。この文章はダミーです。文字サイズや文字間隔の参考にしてください。この文章はダミーです。文字サイズや文字間隔の参考にしてください。この文章はダミーです。文字サイズや文字間隔の参

この文章はダミーですここにはキャプションが入ります

この文章はダミーですここにはキャプションが入ります

取材協力／〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

今できることプロジェクト 2021-2022 復興から伝承へ

小さな支援も集まれば大きな力となります。ひとりでも多くの人が被災地支援のアクションを起こすために、企業・団体と市民が一緒になって「自分に今できること」は何かをともに考えていくプロジェクトです。

河北　今できること　検索

［お問い合わせ］今できることプロジェクト事務局
河北新報社営業部 tel 022-211-1318

私たちはこれからも東北の復興を応援していきます。

賛同企業ロゴ　賛同企業ロゴ　賛同企業ロゴ　賛同企業ロゴ

ホームページとSNS

今できることプロジェクト オフィシャルホームページ

https://www.kahoku.co.jp/imadeki/

新聞読者だけでなく 広く活動内容を発信

今できることプロジェクト特設webサイトで、新聞読者以外の方々にも取り組みを発信していきます。紙面と連動してサイト内に記事や動画を掲出するとともに、紙面を読んでの意見や感想、復興応援メッセージや現在取り組んでいる支援などを紹介。誰でも自由に参加できる広場になっています。

今できることプロジェクトFacebook

https://www.facebook.com/imadeki/

いいね！総数 2,438！

記事と連動しながら 賛同者と情報共有

今できることプロジェクト関連の情報や、復興に関わる新聞記事のリンクを随時アップしています。被災地の「いま」を伝えてまいります。

賛同料金について

お申し込み締切　2021年9月17日(金)

※プロジェクト期間途中からの参加も可能でございますが、賛同料金については同額になります。

賛同企業メニュープランA

300,000円(税別)

❶各回特集紙面に企業名表記
❷毎月1回、朝刊カラー全1段で企業ロゴ掲載
❸被災地支援活動を取材(素材提供も可)し、
朝刊記事体モノクロ3段1/2を1回掲載
※被災地支援活動以外の原稿を掲載希望の場合、朝刊カラー4段1/4相当を1回掲載
❹特設webサイト内で企業ロゴ掲載およびリンク設置
❺親子で学ぶ防災学習支援、気仙沼の新たな特産発信支援、石巻・牡鹿地域の資源活用支援への参加権利
(各回2名まで)
❻次世代被災地視察教育支援で中学生が作成した特集紙面に企業名表記

賛同企業メニュープランB

1,700,000円(税別)

プランAの❶～❻は共通メニューです。
❼朝刊カラー全5段のフリー掲載
(掲載期間／2021年9月～12月)

賛同企業メニュープランC

3,600,000円(税別)

プランAの❶～❻は共通メニューです。
❼朝刊カラー全15段のフリー掲載
(掲載期間／2021年9月～12月)

東日本大震災発生時からの取り組みをまとめておきたい、新たなフェーズとしてどのような取り組みをしたら良いのか、企業研修として被災地へ訪問を考えたい、など東日本大震災支援関連でのお困りごとなどございましたらご遠慮なく当プロジェクト事務局にお問い合わせください。